序

平成 31（令和元）年度の近畿大学原子炉等利用共同研究には、物理系 16 件、化学系 2 件、生物系 3 件の合計 21 件の共同利用申請がありました。これは、昨年度とほぼ同程度の申請数でした。令和 2 年には、ご存知の通り、新型コロナウイルスの蔓延が始まりました。しかし幸いなことに、当初計画で 2 月、3 月の利用予定が無く、ほぼ予定通り共同利用を進めることができました。平成 31（令和元）年度の共同利用が滞りなく遂行できたことは、研究者の皆様のご努力による結果であります。ここに感謝申し上げますとともに、報告書として取り纏めさせていただきました。幅広くご活用くださいますよう、何卒よろしくお願いいたします。

平成 31（令和元）年度には、課題の系の分類について議論が行われました。現在の物理系、化学系、生物系から、近大原子炉設立の本来の目的の一つでもある、教育系を加えることといたしました。これまで物理系に含められておりました近大炉の運転実習などを含む教育系課題を正確に分類することができると考えております。令和 2 年度からスタートいたしました。

令和 2 年度に入りましてからは、新型コロナウイルスの影響により、共同利用を見合わせる状況となり、7 月から再開しましたが研究者の皆様にはご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳ございませんでした。

昨今、研究炉はその意味付けなど議論が続けられております。近畿大学原子炉は、国内で利用可能な数少ない研究用原子炉の一つです。今後とも研究・教育にご活用いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

令和 2 年 12 月

平成 31（令和元）年度近畿大学原子炉共同研究運営委員会
委員長　　村田　　勲